

漁況予報 いわし

第 1 2 3 号

2004年 5～6 月漁期
(2004年5月 日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網における3月のマイワシ総漁獲量は7トンで、前年同期の3.7トンよりは多かったものの依然として低調で推移しました。各定置網とも小中羽マイワシ(2003年級群:12～15cm)主体の漁獲でした。4月に入るとさらに漁獲水準は落ち、2トン程度に留まりました。このうち、1.4トンは1日に大磯地区の定置網に入網したヒラゴ(体長8cm程度)でした。

佐島地区のまき網は、3月はカタクチイワシ、4月はヒラゴ主体に漁獲し、餌イワシとして随時生け簀で活かしました。

このように、4月に入り3年ぶりにヒラゴが獲れるようになってきました。これは前号でお知らせしましたように、1月に試験操業で多獲されたマシラスが、引き続き相模湾に留まり、順調にヒラゴへと成長したことをうかがわせるものです。

今後、これらヒラゴが1尾でも多く成魚へと成長するのを期待したいところです。

【かたくちいわし】

主要定置網における3月のカタクチイワシ総水揚げ量は、760トンで昨年同期(308トン)を大きく上回りました。このうち、半分は腰越地区での水揚げで、隣の鎌倉地区と合わせると2統で実に8割を占める結果となりました。魚体は10cm台にモードを持つ小型成魚が主体でした。4月に入ると、昨年同様漁獲水準は落ち、40トンに留まりました。ただし、東京湾側・金田湾(1統)では中旬以降連日1トン以上の水揚げが続き、前年を上回りました。

佐島地区のまき網は、3月こそ中旬にかけてカタクチイワシ主体での漁獲となりましたが、下旬から4月にかけてはヒラゴに漁獲努力が向けられました。

【しらす】

3月11日に解禁した相模湾のシラス漁ですが、昨年同様、大変厳しいスタートとなっていました。これは黒潮の流型に因るところが大きいと考えています。当初、春漁期中の黒潮は蛇行傾向で推移するという予測でしたが、3月下旬に水産庁から新たに発表された予測によれば、N型基調(伊豆諸島を西から東へ直線的に流れる)で推移するというものに変更になり、現在そのとおりになっております。その結果、相模湾への暖水波及が弱く、沖合海域のシラスが湾内へ来遊しにくい状況が続いており、漁獲量が伸びないものと思われる。同じく、愛知・静岡・茨城県海面でもシラス漁は悪い状況が続いています。

一方、紀伊水道や土佐湾周辺の紀伊半島以西海域では、昨年以上の漁模様になっているようです。冬型の気圧配置ではありませんが、まさに西高東低の状態にあります。

＝ 予報 ＝

まいわし

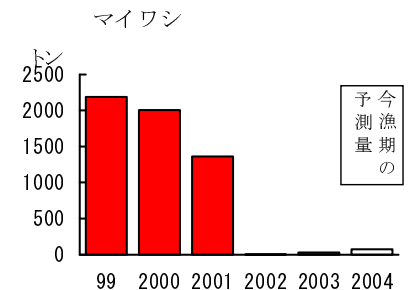
今漁期は、中羽イワシ(2003年級群)が漁獲の主体となり、これに0歳魚が混じるでしょう。

定置網とともに、まき網でも餌イワシとしてヒラゴの漁獲があると思われます。

今漁期の水揚げ量は、約75トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網の水揚げ量

過去5年の5・6月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量

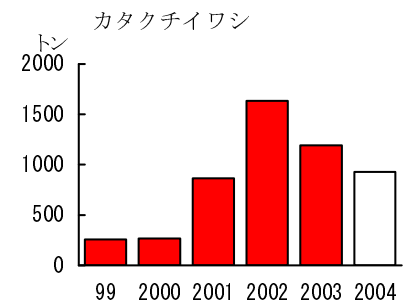


かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び大型成魚が漁獲の主体となります。

今漁期の漁獲量は、約925トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網の水揚げ量



しらす

今漁期は、4～5月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

親魚量は少～中レベルですが、黒潮がN型基調であることを勘案すると、引き続き沖からシラスが来遊しにくい状況が続くと思われます。

今漁期の漁獲量は、カタクチシラス主体で約85トンと予測されます。

